

第3回 Harmonizing実践①

実践 Harmonizing 練習曲

【3-2 Etude1】から

2小節目のE7altにあるメロディがこの楽曲で一番難しいハーモナイズになるので最後に説明します。まずは3小節目からハーモナイズしていきます。3小節目から5小節目のあたまでメロディにインターバルを付けます。

まず最初に行うことはメロディをセンタートーン(Ct)とアプローチトーンリーチトーン(Ap)に分ける「メロディの仕分け」です。

大事なことは分数コードのときに「True Bass」を見抜くということです。ダブルストラクチャーコード「Dm7/G」は本来「G7sus4(9)」です。すなわち**True Bass=「G」**です。一方「E7alt/G#」はインバージョンコードでベースが一時的にコードトーンのG#を奏でているにすぎないので**True Bass=「E」**です。

詳細に見ていきましょう

「B=#11」はCtともApとも取れそうです。こんなときは「その音を省いてみる」という判別法があります。Apならばメロディのキャラクターに大きな影響を与えません。Ctならばメロディの本質が変わってしまいます。この場合はApです。

最後の音「G」はアンティシペーションで次の小節にまたいでいます。この時「概ね4分音符未満の音は次の小節音として捉える」とするのが基本です。

次の部分。

ApはCtに「上下半音またはスケール上の全音」で解決しなければなりません。よって「E→A→C」の部分は全てCtと捉えなければなりません。

また本来がsus4コードなので「B=M3」がアボイド扱いとなりAp確定となります。

sus4コードの定義
によりM3がAp

Dm7/G || G7sus4(9) Ct (11) Ap M3 Ct 9 Ct R Ct 9 #9 E7^{alt}

Apに見そうなインターバルだが解決の定義を満たしていないのでCt

「E7alt」 → 「E7alt/G#」

この部分は**True Bass=E**なのでAltered scale外の「B=P5」がApになります。

TrueBass=E

E7^{alt} E7^{alt}/G# Ct #9 Ap P5 Ct #9

ここまでの「メロの仕分け」は次のようになります。

FΔ7 Dm7/G E7^{alt} E7^{alt}/G#

Ct M3 Ct P5 Ap #11 P5 Ct R Ct 9 Ct (11) Ap M3 Ct 9 Ct R Ct 9 Ct #9 Ap P5 Ct #9

Ctを元コードでハーモナイズ

まずはCtに対して元コードでHarmonizingします。

5thトップのときは7(9)形のテンションコードでハーモナイズしてもよい

Rトップのときハーモナイズが難しい

【Tips】

5thトップの場合はテンションコード形「7(9)」が使えます。内部に(9)を持つ形でハーモナイズできます。これは求めるサウンドの好みで選択して構いません。

Rメロのハーモナイズは難しい

Dm7/GのRメロ「G」は4和音でハーモナイズするのに悩む部分です。Gから下オクターブ範囲でDm7の構成音は「F」「D」「C」とありますが、このまま全て使うと「C D F G」とクラスターコードになってしまいます。そこで「F」を省きあと一音足すのに「A」を加えます。

実質は「G7sus4(9,13)」

本来のコードは「G7sus4(9)」ですが、実践でのハーモナイズは分子部分の「Dm7」を考えれば良いことがわかります。すると「E=13」はDm7(9)でハーモナイズすれば良いことになります。

$E7^{alt}$ $E7/G\sharp^{alt}$

$E7(\sharp 9 \flat 13)$ $E7(\flat 9 \flat 13)$

$E7(\sharp 9 \flat 13)$ も使えるところだが響きで判断する。

Altered scaleでの元コードハーモナイズは「+7」「7(♭5)」「7(♯9 ♭13)」「7(♭9 ♭13)」と多岐にわたります。状況に応じて使い分けられることが必要です。「C=♭13」のところは「7(♯9 ♭13)」「7(♭9 ♭13)」の両方使用可能なところですが、これも実際に聴き比べて選択します。

Apのアプローチコードを考える

サウンドに違和感があり使えない
 ↓
 別の解決法を探す

アプローチコードの探し方チャート(p.11)より「B=#11」はSTAを選択します。FΔ7はD7Cの「IV」なので「III=Em7」と「V=G6」がアプローチコードとなり、実質同じアプローチコードになります。次の「B=M3」もSTAとなり、Dm7/GがD7Cの「V」なので「IV=FΔ7」「VI=Am7」がアプローチコードとなります。この場合、「B」はFΔ7の#11、Am7の9にあたるのでテンションコード形「FΔ7(9#11)」「Am7(9)」を使いますが結果は同じになります。

【重要】III7でのアプローチコード

E7altでの「B=P5」はスケール外の音であり、チャートからはCh.Aしかできません。その通りに「D#7(b9b13)」をアプローチコードとするとサウンドに大きな違和感が発生します。III7のときには考え方を改めてハーモナイズに臨むことが求められます。

「III7のときはスケールが重ね合わせの状態になっている」

理論①12回目の授業でIII7について学んだときに、III7のポジションには様々なスケールが対応することを説明しました。アプローチハーモナイズにてIII7のときには

「メロディの1音ずつにIII7対応スケールが変化していて、その代表として元コードが付けられている」

と見ます。実践ではほぼブロックコードによるハーモナイズになります。

III7代表の元コード

alt E7 alt E7/G#

メロディごとに対応したスケール

Altered ← → Altered

#9 P5 b13

HmP5B

E7(b9)

スケールトーン(コードトーン)として捉える

「B=P5」の鳴っている時間内はHarmonic minor P5th belowが対応すると考えます。するとHmP5Bの対応コード「E7(b9)」でハーモナイズできます。

以上からここまでのHarmonizingは次のようになります。

The musical score is written in 4/4 time on a single staff. It illustrates various chord voicings and substitutions:

- Chord 1:** F Δ 7 (voiced as F Δ 7)
- Chord 2:** F Δ 7 (voiced as F Δ 7)
- Chord 3:** Em7=G6 (voiced with red notes)
- Chord 4:** F Δ 7 (voiced as F Δ 7)
- Chord 5:** Gsus4(add9) (voiced as Gsus4(add9))
- Chord 6:** Dm7(9) (voiced as Dm7(9))
- Chord 7:** Dm7 (voiced as Dm7)
- Chord 8:** Dm7 (voiced as Dm7)
- Chord 9:** Am7(9)=F Δ 7(9#11) (voiced with red notes, labeled with a box)
- Chord 10:** Dm7 (voiced as Dm7)
- Chord 11:** Gsus4(add9) (voiced as Gsus4(add9))
- Chord 12:** Dm7 (voiced as Dm7)
- Chord 13:** E7(#9 b 13) (voiced with purple notes)
- Chord 14:** E7alt (voiced as E7alt)
- Chord 15:** E7alt/G# (voiced as E7alt/G#)
- Chord 16:** E7(#9 b 13) (voiced with purple notes)
- Chord 17:** E7(b 9) (voiced with purple notes)

Red boxes labeled "STA" are placed below the Em7=G6 and Am7(9)=F Δ 7(9#11) chords. A purple box labeled "E7(b 9)" is placed below the final chord.

スケール別に見た全Approach Harmonizing

スケール別全ての「ApからCtへの解決」をまとめることは、実践でアプローチハーモナイズを使いこなすのにとっても有効です。また、メロディの考察にもっとも威力を発揮します。膨大な数になりますが確実に一つずつこなしていきましょう。

まずはCtを決めて、できうるApを全て考えアプローチハーモナイズを書き記していきます。便宜上：Cにて進めます

Ionianでの全Approach Harmonizing

元コード=C6 Ct=E(M3)の時

元コード=「C」

A musical staff in treble clef showing a melodic line. Above the staff, intervals are marked: 9, M3, m3(=#9), M3, 11, M3. Below the staff, chord symbols are listed: Dim.A, ADA, Dim.A. Underneath Dim.A, the letters STA are written. Underneath ADA, the letters Ch.A are written.



A musical staff in treble clef showing chordal accompaniment for the melodic line above. Above the staff, the label C6 is repeated seven times. Below the staff, chord symbols are listed: Do7, Dm7, G6, G7(#9 b 13), B6, Do7, Dm7. The notes in the chords are color-coded: red for the root, blue for the third, black for the fifth, and purple for the seventh.